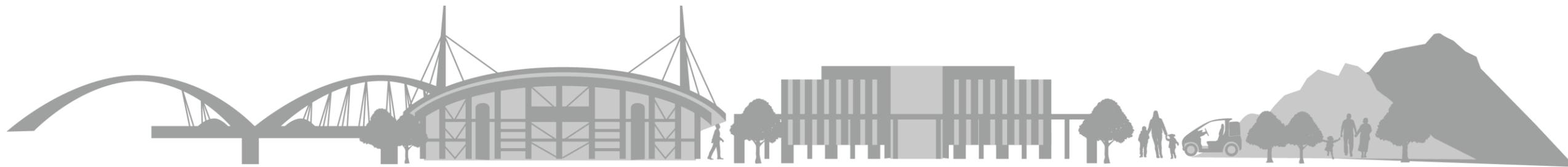


参考:スライド版

豊田市生涯学習審議会 「人生100年時代における 学びのあり方と方策について」

豊田市

生涯活躍部 市民活躍支援課



1 はじめに

○本市では、第8次豊田市総合計画において、「学び合い」を計画推進の重要な視点として位置づけ、重点施策「超高齢社会への適応」、基本施策「生涯学習」を基本に推進。

○今後も後期高齢者の急増や高齢化率の増加が見込まれ、長寿社会、「人生100年時代」が一般化。

○気候変動、未曾有の自然災害や感染症、AIをはじめとしたデジタル化の進展など目まぐるしい社会環境。コロナ禍では、外出自粛や社会的距離の確保を余儀なくされ、活動や対話の機会が減少。

○国では、人生100年時代構想会議を皮切りに、長寿社会とどう向き合うかについて多方面で議論が進行。

こうしたなか、**生涯学習の役割や意義を改めて再定義**するとともに、本市のこれまでの取組等も踏まえて次期総合計画(令和7年度～)の策定を見据え、「人生100年時代における学びのあり方と方策」について、**中長期的な視点や施策をとりまとめ**するもの

2 国等の動向

(1) 文科省：第中央教育審議会生涯学習分科会

<生涯学習・社会教育の役割>

- 生活に必要な知識を身につけ、自己実現を図るもの
- 人生100年時代では、従来の役割に加えウェルビーイングの実現、地域コミュニティの基盤、社会的包摂の実現、デジタル社会に対応等がより重要

(2) 文科省：社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方(中間まとめ)

- 社会教育人材の質的な向上・量的な拡大が極めて重要

(3) 文科省：中央教育審議会教育振興基本計画

教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営み

<計画のコンセプト>

- 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

(4) 内閣府：経済財政運営と改革の基本方針2022

- デジタル化や脱炭素化という変革の中、新しい資本主義に向けた重点分野として、人への投資を位置づけ
- リカレント教育を促進するための環境整備や人材育成の強化等の取組を推進

(5) 厚労省：職場における学び・学び直しガイドライン

- 労働者の「学び・学び直し」の重要性や学びのプロセスに沿った取組の考え方・留意点や取組例を提示

(6) OECD：ラーニングコンパス2030

- 子どもたちが成長して世界を切り拓いていくために求められる知識、スキル、態度・価値など教育の未来像

(7) 日本経団連：新成長戦略

- 時代に即した人材育成のためには、「学び」の制度やDXを進め、場所や年齢問わず効果的に学べる

3 本市の現状

(1) 推進体制

- 総合計画を基本に生涯学習施策を推進
 - <重点施策> 超高齢社会への適応
 - <基本施策> 生涯学習
- 生涯学習・交流・市民活動の拠点として、中学校区ごとに交流館(全28か所)を設置

(2) 本市の特徴

- 世界的な自動車産業の拠点として発展してきた都市
- 豊かな自然、多様な歴史・文化を持つ都市
- 多様で充実した担い手を有する40万人都市

(3) 本市を取り巻く社会環境の変化と課題

- 超高齢社会の進展
- 産業構造の大転換
- コロナによる新たな日常
- 大規模自然災害や気候変動

(4) 本市の主なトピック等

- 相互理解と意思疎通に関する条例
- 山村条例等
- 部活動の地域移行
- 豊田市博物館の開館等



4(1) 生涯学習の意義や役割

教育基本法第3条

「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」

- 定年延長でより長く働くことが求められるなど、「**就労機会の拡大**」などの観点からも重要
- 急速なデジタル化の進展などライフステージに合わせた「**学習更新の役割が再認識**」
- 地域課題が複雑化する中、学びを通じた「**地域コミュニティの形成**」に寄与

生涯学習はまちづくりの根底に位置づく概念
「学び合い」の考え方は、引き続き、重要な視点

<学び合い>

「つながりや価値・可能性をつくりだすこと、行動すること」は、知ること、気づくこと、他を認めること、考えること、体験すること、他と共有することなどを通じて形づくられていくもので、そうした過程を「学び合い」と表現。

4(2) 生涯学習・学びとは

- 生涯学習とは、「一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習」
- 「学び」というと勉強や資格取得などをイメージすることが多いが、日常の暮らしや人とのつながりの中で多くの学びをしており、仕事や遊びも含めた暮らしそのものに学びは溢れている。
- 「学び」のイメージを払拭しつつ、日々の学びを通して、自らの変化を他者とともに楽しむことが豊かな人生につながる。自分を棚卸し、自己理解を進めることで、柔軟に自分らしい生き方も選択できる。

いわば、生きていることそのものが「学び」

すべてが学び



仕事



趣味



暮らし



遊び



勉強

4(3) これからの社会のあるべき姿

<人と人がつながり合う社会>

- あらゆる立場の方が多様な価値観を認め合い、つながりを育むことで、困りごとや課題が生じた場合は助け合い、楽しみは共に分かち合うことが可能
- 良好な関係性が築かれている場合は、個人の役割や能力が発揮されることが期待
- 人口減少社会は、つながり合うことの価値がこれまで以上に重要



<すべての世代が活躍する社会>

- 高齢者を問題と見なすのではなく、次の世代へと受け渡していくため、大人が次の世代である子どもを主役へと育てることが重要
- 年齢や対象で切り分けるのではなく、高齢者も含めたすべての人々が、社会の能動的な主役の社会をつくり、生涯にわたって健康で活躍できる社会



<挑戦を支え失敗に寛容な社会>

- 変化が激しく複雑化する社会課題に対応していくためには、試行や実践を繰り返し、失敗を恐れず挑戦していく土壌と支える仕組みが必要
- 年齢問わず、挑戦し続け、大人が子どもの挑戦を支えていく視点



4(4) これからの学びに必要な視点

①探究的かつ対話的な学び

⑥デジタル技術の活用

②世代間交流による学び

⑦アントレプレナーシップ教育

③学び直し(リカレント教育)

⑧地域コミュニティでの学びと実践

④学びの発信と行動

⑨社会的包摂・SDGs

⑤学びの可視化と自己経営

⑩NPO等パートナーシップ連携

基本的な考え方として整理した

- ・生涯学習の意義や役割
 - ・生涯学習・学びとは
 - ・これからの社会のあるべき姿
 - ・これからの学びに必要な視点
- 等を踏まえ、

総合的かつ効果的に施策立案を行う必要がある

中長期的には次期総合計画への位置づけ等を検討

<全体の体系>

■あるべき姿

人と人とがつながり合う社会 全ての世代が活躍する社会 挑戦を支え失敗に寛容な社会

■望ましい姿

いつでもだれもがやりたいことに挑戦でき、
つながりのなかで、学び・活動・体験を通じて豊かさや幸せを実感(共感)できている

■学びの視点

- ①探究的かつ対話的な学び ②世代間交流による学び ③学び直し(リカレント教育) ④学びの発信と行動
- ⑤学びの可視化と自己経営 ⑥デジタル技術の活用 ⑦アントレプレナーシップ教育
- ⑧地域コミュニティでの学びと実践 ⑨社会的包摂・SDGs ⑩NPO等パートナーシップ連携

■施策

①学ぶ機会と場の充実

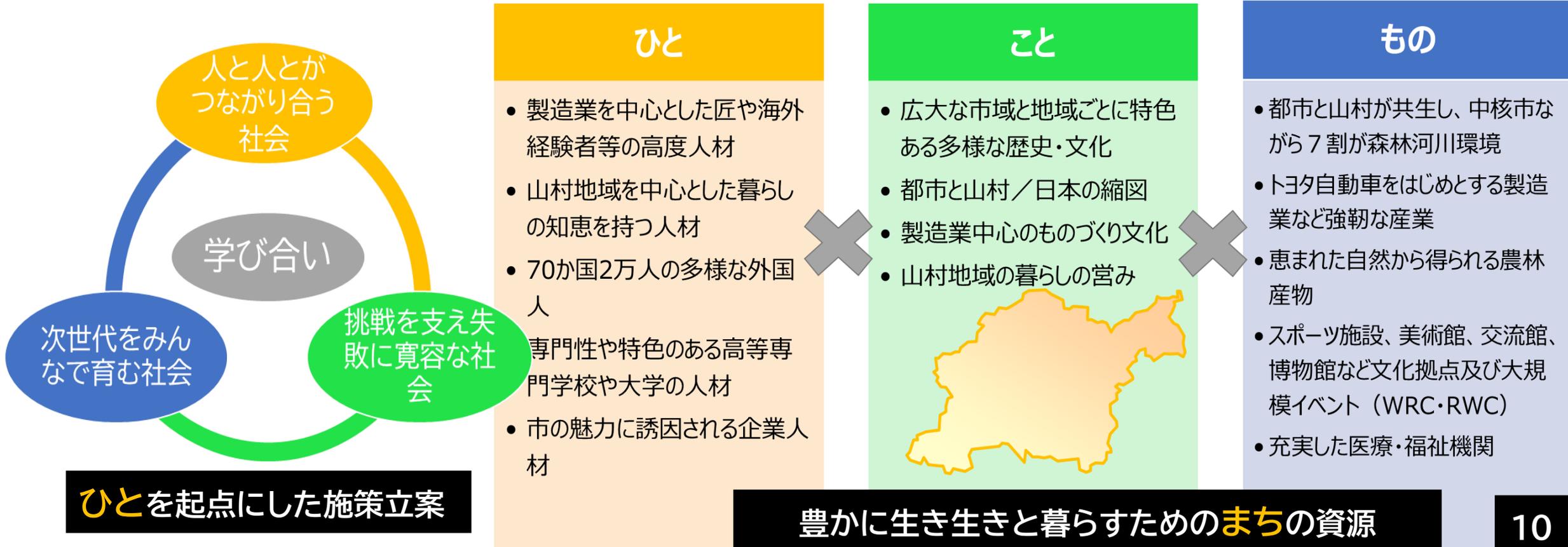
②学びを生かす機会と地域活性化

学び合いを通じたひとづくり

③未来を担うひとづくり

④大人の学びとライフキャリア

- これからの社会のあるべき姿「人と人がつながり合う社会」、「すべての世代が活躍する社会」、「挑戦を支え失敗に寛容な社会」を実現するため、**ひとを起点にした施策**に舵を切っていく必要がある。
- そのためには、**本市が持つ多様な資源(ひと・こと・もの)**を最大限に活用して、市民が互いに学び合える環境や支援を図っていくことで暮らしの充実を図る。



- 人生100年時代では、いくつになっても学びを繰り返しながら暮らしや仕事と向き合っていくことが大切です。ライフステージごとに体系立てた取組を進めつつも、世代や属性を超えて相互に学び合う視点を入れることが重要です。



世代や属性を超えて相互に学び合い

ひとの視点

小学生

中学生

高校生

大学生

大人

・地域を知る
・ものづくり学習や文化・スポーツ活動を通じた体験

・地域活動を通じた郷土愛の醸成
・大人との出会いによる自己理解や自己肯定感の向上

・大人との出会いによる人生観の育成(生き方ものさし)
・好きなことややりたいことの探究

・地域社会の創り手としての実践活動

・複線的なキャリア
・棚卸し・アンラーン
・知識・経験の伝承

まちの視点 学びを支える基盤(ひと・こと・もの)

<①学ぶ機会と場の充実>

いくつになってもライフステージ等に合わせて学び続けられる機会と場の充実について

- ✓ 交流館については、地域の「学び・交流・活動の場」としての利用を促進しつつ、平成30年の条例改正等による運営見直しの成果や今後求められる役割等も踏まえて、効果的な運営など更なる充実を図っていくことが必要。
- ✓ デジタル社会では、パソコンやタブレットなどの機器やWi-Fi環境整備等のデジタル基盤の強化によって、外出に制約のある方等への社会的包摂に資する取組が期待できる。
- ✓ 本市は、県内最大の面積かつ都市部と山村部を有する特徴があり、デジタル化を推進することで地域間交流や場所を問わない学習形態としての可能性がある。
- ✓ デジタル機器に不慣れな高齢者等を対象としたデジタルデバイド解消に向けた取組を推進し、格差を是正することが求められる。操作性(使い方)を学習する機会に加え、必要性(使う動機)を感じる機会があるとより効果的。
- ✓ 住民や企業等の民間による取組など市民が学ぶ機会は広がりつつあるが、こうした情報が必要な方へ届かないことがあるため、SNSやブログなど時代に合わせた効果的な情報発信が必要。
- ✓ その他、大学等との包括連携協定を活用するなど高度な専門性を有する高等機関と連携した学びプログラムの開発や共働による市民向け講座などを実施していくことが有効。

<②学びを生かす機会と地域活性化>

学びを通して得た成果(知識・経験・つながりなど)を発揮するための行動機会づくりと社会や地域の課題解決について

- ✓ 市内全小・中・特別支援学校に設置する地域学校共働本部については、引き続き、学校と地域が連携した共働の仕組みとして活用しつつ、地域ぐるみの子育てを通して、世代間交流や能力を発揮できる場として期待される。
- ✓ 交流館と連携を図ることで、関わる主体や活動する場が増えるなど、地域とともにある学校づくりに資するだけでなく、子どもを起点に顔の見えるコミュニティが形成されるなど学校を核とした地域づくりに貢献する役割もあるといえる。
- ✓ その他、市民の活動を支える拠点としての市民活動センター、男女共同参画センター、ものづくりサポートセンターなどについて、時代の潮流や市民のニーズを踏まえて効果的な運営を行っていく必要がある。
- ✓ 交流館等の中間支援拠点において、地域や人をつなぐことができる人材、いわゆるコーディネーターの存在が重要であり、公的機関での職務経験のある人材や社会教育士等の精通した人材の活用が求められる。
- ✓ 人口減少で担い手不足のなか、プロボノ や副業などを通して社会や地域で能力を発揮する機会の提供及びコーディネートも有効。
- ✓ 大学や民間企業では、地域を巡りながら学ぶプログラムが展開されており、個人の成長と地域活性化を兼ねた手法として地域を題材にした学習の効果も期待される。

<③未来を担うひとづくり>

これからの未来を担う子どもを起点とした学びや体験機会について

- ✓ まちの魅力を次の世代に継承し、持続可能な地域を築くためには、本市の豊かな自然、歴史・文化などの地域資源に親しみながら郷土愛をつないでいくことが必要。
- ✓ 豊田市博物館(R6.4開館予定)は、多様な価値や魅力を守り、伝え、育む豊田市ならではの総合博物館であり、郷土愛を醸成するための拠点施設として、学びや体験機会の充実が求められる。
- ✓ 子どもが郷土を愛する心や学びに向かう力を育むための学校教育の取組「WE LOVE とよた教育プログラム推進事業」についても、豊田市博物館と連携しつつ、引き続き推進していく必要がある。
- ✓ 自然、歴史・文化などの地域資源に加えて、地域の大人と子どもが対等な関係のもと語り合う場をつくることも有効。成功体験や職業の講話はもちろんのこと、人生の先輩として失敗した話を共有することも重要。
- ✓ 中学校部活動の地域移行においては、子どもがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保が求められており、学校と地域が連携して推進することが必要。
- ✓ 豊田地域文化広場は、学び・スポーツ・文化における複合的かつ広域的な施設として、経緯や役割を踏まえ、子ども体験館等の機能を拡充するなど子どもを起点とした多世代が集う施設運営が求められる。
- ✓ 正解のない問いに対峙し、失敗を恐れず試行を繰り返しながら新しい価値を生み出していく人材を発掘・育成するためには、アントレプレナーシップ教育(起業家精神)が有効。起業家等と連携しつつ、子どもの年齢や成長段階に応じたプログラムを実施していくことが重要。

<④大人の学びとライフキャリア>

複線的な生き方・働き方を踏まえた社会人(大人)の学びについて

- ✓ 単線型キャリアより複線型でマルチなキャリアを形成し、会社以外のコミュニティに属することが求められており、属性の異なる方とのつながりに飛び込むことは視野の拡大や豊かな人生につながる。
- ✓ 定年延長など働くことが長期化することもあり、定年後からではなく、ライフステージの早い段階からライフキャリアを描くことが効果的。
- ✓ 国では、大学等の講座などを掲載した社会人の学びを応援するサイト「マナパス」の開設や教育訓練給付金などの金銭的支援などの施策を推進しており、こうした支援策を活用していくことも有効。
- ✓ 他者との対話等を通じて自分自身と向き合いキャリアを振り返る場や気づきを得る機会づくりが必要。また、複数の仲間やコミュニティでの学び合いは、継続的な学びや新しい発見につながることもある。
- ✓ ライフステージや家庭環境等によっては、日々の生活の中で学びに充てる時間の制約がある方もいることから昼休みや夜間あるいは休日など参加しやすい時間設定が重要。
- ✓ 交流館の利用者の多くは、子育て中の親子、高齢者、中学生であることから、夜間の交流館を社会人(大人)の学び場として開放するなど新たな利用者の拡大に努める必要がある。
- ✓ その他、民間の社会人向けオンライン学習サービスでは、ユニークな動画コンテンツや最新の技術をはじめ、楽しく継続的に学ぶことができるサービスが展開されていることからこうしたサービスとの連携も有効。

参 考 資 料

<生涯学習審議会委員> 任期:令和4年7月1日~令和6年3月31日 ◎会長 ○副会長 *敬称略,順不同

氏名	所属
岩月 明人 大岩 由治	とよたシニアアカデミー 事務局長 ※令和5年5月1日で交代
上山 仁 近藤 悟	地域学校共働本部推進アドバイザー ※令和5年5月1日で交代
江里口 あけみ	榊塚西町ささえ愛隊 副代表
藤本 修身 大山 昌史	市区長会 理事 ※令和5年7月1日で交代
鬼木 利瑛	株式会社eight 代表取締役
○小宮山 利恵子	(株)リクルートスタディサプリ教育AI研究所 所長
坂元 玲介	とよた多世代参加支援プロジェクト 会長
戸田 友介	株式会社 M-easy 代表取締役
古川 由香	市民公募
古澤 三秀	市民公募
◎牧野 篤	東京大学大学院教育学研究科 教授
三ツ石 靖子	市文化振興財団 交流館課 主任指導主事

人生100年時代における 学びのあり方と方策

めざす姿 市民が学び活躍できる環境の充実

方策① 学ぶ機会と場の充実



方策② 学びを生かす機会 地域活性化



方策③ 未来を担うひとづくり



方策④ 大人の学びと ライフキャリア



学びの根拠

「あはれにとって学びとは何ですか？」

知識？ 生涯学習？ 体験？ 学校？ 経験？

人による様々な

学び⇒遊び？ ex. パン作り、投資...

目標あり 自ら学ぶ 調べ 行動する生きがい

色んな視点から

EX. 生活困窮 障がい者 色んな立場の人がいる

「定義」を決めては？

言葉にはそれぞれニュアンスがある

学びとは

学びのハードル

あはれは、学んでいますか？

うん、特に学んではいない？ かな？

「学び」のハードルが高いのでは？

① ハードルを下げるには？

- ① 学びにかわる言葉は？
あそび？ 体験？ はあはれのこと
 - ② そもそも日々学んでいる？
!! 日常の小さな気づき
次はこうするぞ！
 - ③ 身近な場所で
すき間時間
例：病院・スーパー待ち時間
chocoZAP 手軽に
- #### ② なぜハードルが高いのか
- ① 割合が学ぶ意欲がない
面倒なのでは？
楽しければできる 続けられる

交流館のあり方

① 交流館稼働

現状 中高年齢者中心
地域学校共働本部 ほど
土曜学習
ミライ塾(学習)

担い手 指導者
現役世代 → 仕事...
大学生 → 1年程度
特技をいがして

② コンテンツの再考

「交流」だけでなく「学び」も
企業等と連携
深められる講座
できはいいか

③ 発信

情報がほいほいにどう周知？
いくら長いことしても 社会に役
人に知られたらいいよ ことは
や、てはいいのと同じだ。 メディア
サイト

アイデア① 豊田市民学び
創造大学
学びたい人の
プラットフォーム
登録して自由に学ぶ体験

関係性づくり

小さな社会で
情報連携できるしくみ
LINE SNS X
信頼のある人のつながり、語りあえる関係

あそび×学び×働く

遊び 働く 学ぶ

わけていた生活 仕事を通して 地域学校 共働本部の目指すところ

はあはれ 社会貢献

これからの 学歴 → 学習歴

シニアの学び

シニア インフォメーション

ほしい時に そのタイミングで 目にする有効な情報になる

子ども向け
親子向け
シニア向け

対象でわかる 日時についている？

アウトプットは必須？
社会に出て、何かに積極的に取り組む → いよいよ
学びは外へ課題解決
自分の変化を楽しむ
関係性がかわる
X 教えたがり、おしつけ

学びのアウトプット

多世代交流・学び合い

1991 生涯学習センター
学びの統合センター
小中学校 食堂

聞いてくれる存在が 学校地域施設に在るといい
1つの施設に 様々な人が混ざって学び合える
... 浄水交流館

子どもの学び

「やりたい、やってみよう、と思ったことを 学校でやらせてもらえたこと」

子どもが自由に 移動できると どの家庭に 色んなことができよう！ 関わらず
子どもバス 1人、バスののり！

学び直し = 自己理解

昔とかわってしまった → 学び直し

生きがいの獲得
50代 自分のおもしろいところ、かわらばいい。



人生100年時代における学びのあり方と方策

人生100年時代 生涯学習
「生まれてから死ぬまで」の
学び合い

その人の人生
満足・納得できるか

ラーニングコンパス



道に迷ったら誰かに相談できる 教え合う 学び合う

地図のない時代だからコンパスを!!

例えば、杉並区以前 目標設定 達成するために... やめた

17ページの短い教育計画

譲れないものは? 命! 尊厳!

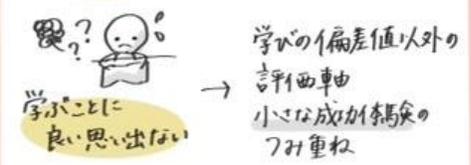
「みんなの幸せをつくる杉並の教育、各学校集会 幸せとは?」

Do & Be



→ 強み 弱み 状況 経験 全てが自分の価値

学歴社会と学び



日本に学ぶ意欲のある人が少ないのは、学歴社会がつくりだしている?

学び合いを通じたひとづくり

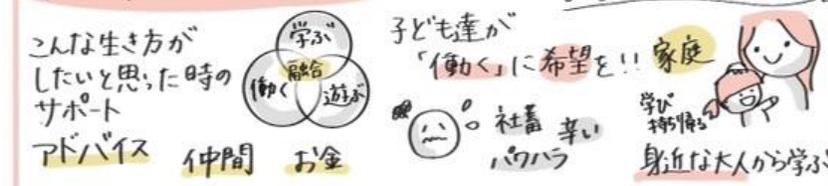


いつでも だれでも やりたいことに挑戦でき つながりの中で 学び・活動・体験を通じて 豊かさや幸せを実感できている

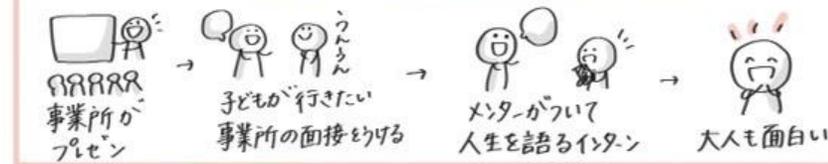


年齢・ライフステージ関係なく学び合う

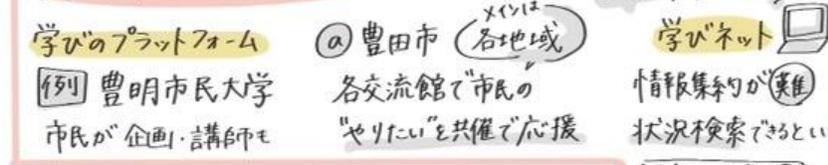
学ぶ・働く・遊ぶ → 生きる



例: 益田市 人生を考えるためのインターンシップ



学びの情報集約と発信



表現 価値観 多様化? → メッセージインパクト強くていいのでは??



生涯学習審議会委員